

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472000120		
法人名	医療法人(社団)佐藤病院		
事業所名	グループホーム ながしま		
所在地	三重県桑名市長島町福吉268		
自己評価作成日	平成 21年 10月 10日	評価結果市町村提出日	平成22年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472000120&SCD=320>

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 21 年 11 月 2 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびりとした生活を支援して、その人にあった日常生活を送れるようにしている。  
医療機関及び、老人保健施設との連携において、協調性をはかっている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療療養法人が、運営する病院、老人保健施設、高齢者生活支援集合住宅の一角に3ユニットの事業所があり、常に法人内は連携をとっており、利用者、家族、職員は安心して生活をしている。管理者を中心にユニットごとに独自性を出し、利用者、職員が和気あいあいと明るく楽しい雰囲気をつくっている。ユニット間の連携もうまく中庭の野菜づくりなど協力し、利用者の交流もしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、日々の実践の中で理念を念頭に置き、意識付けると共に、共有するよう努めている	主任会議やミーティングの時にみんなで読み上げて理念の確認をし実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ユニット間の協力において地域との交流も実施している	事業所の母体が自治会に加入している。地域のボランティアサークルが行事に参加され交流している。学校の運動会や音楽会にも出かけて小学生と交流したりする。時には学校帰りの子供が訪問してくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域研修会参加実習生の受入等行われている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、積極的に意見交換されており、意見等はサービス向上に活かされるよう取り組んでいる	3ヶ月に1回開催しているが2ヶ月に1回の開催を検討している。会議では事業所からの報告や出席者からの意見をききサービスの向上にいかしている。委員の日程調整ができにくいときもあるが万障くりあわせ実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の介護保険課等とも意見交換を行っている	市町村の窓口は施設長になっており、何でも相談をし回答をもらっている。市社会福祉協議会の研修場所として事業所を活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会、勉強会等により、理解を深め拘束のないケアを行っている	3ユニットのうち2階だけは入浴中だけ施錠するがほかはしていない。職員は利用者の状況を観察し安全を確保し自由にしていだけるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、勉強会等を通して理解浸透するよう、周知徹底に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者は現在いないが、各事業所との対応はできている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は支援相談員、管理者、担当職員等の立ち会いのもと、文書・口頭により、十分な説明を行い理解頂けるよう図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族からの意見は謙虚に受け止め、全体で話し合い、反映できるよう質の向上に努めている	利用者の変化や家族への要望があればすぐ利用者にかわって連絡をしている。それに対して家族の意見や思いを利用者に伝えている。職員は家族とも良い関係で家族の一員のように思ってもらえ、なんでも話し合える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	計画書を作成し話し合いのもと、統一した考えを示している	ミーティングや主任会議において話したり、管理者から意見や提案を聞き出すようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの把握に努め、自己評価している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット別勉強会、ユニット合同勉強会を年間行事として取り入れ、外部研修もその都度参加し、職員の資質向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修を初め、グループホームの集い等で、サービスの質の向上を目指している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談、入居初期の段階で本人、家族の意向を反映するように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談(支援相談員等)により、家族の意向が十分に受け止められるように話し合いの中で支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、支援相談員、ケアマネージャー、担当職員等により、家族との話し合いは十分にされており、対応するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いに立ち、その思いに共感し、関係を築いているように声かけ、配慮に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況・状態はその都度家族には報告・連絡し、できる限り思いに近づけられるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はじめ、友人・知人等の来訪・外出はその都度支援できるように努めている	馴染みの美容院や買い物には家族の協力でおこなっている。外出の準備など支援をしている。友人の電話や面会を楽しみにされているので「次回お願いします」と言葉かけに職員は気をつけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性は、殆ど固定化するようにし、職員全員が変化を敏感に感じ取り対応できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関係性を拒むものでもなく、相談等があれば支援させていただく		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりと対話の中で、又、家族の来所時の会話の中での把握に努めている	利用者とのかかわりから思いや要望を把握したり推測している。意思疎通が無理な方や、判断ができない方などは、相手の立場にたって聞いたり、家族と相談して実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時情報、家族からの情報や本人との会話の中より情報収集に努めるようしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムは把握されており、日々の小さな変化を見逃さないよう現状把握に努めていきたい		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人ひとりに職員担当を配置し、気付いた都度に意見交換し、家族には面会・ケアプラン作成時等話し合いを持つように心掛けている	職員の日ごろのかかわりで気づいたことや、利用者、家族の希望をとりいれてサービス担当者会議を開き計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや状態変化等あった場合はその都度の申し送りやカンファレンスを行い検討、見直しに繋がるよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の意見を聞いたうえで個々の対応をさせていただくように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会福祉協議会をはじめ地元の方との協力体制はできている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3週間に一度の担当主治医の往診があり、法人病院の受信も可能であり、適切な医療が受けられるよう支援されている	事業所の協力医の往診が3週間に1回ある。体調に変化があれば看護師より隣接する病院や家族への連絡があり対応が早く利用者、家族から安心されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時の担当看護師、非常勤で配置された看護師との情報共有、連携により適切な受診や看護が受けられている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人病院、他医療機関に対しての情報提供・交換に努め、家族への報告・連絡で連携も取りながら対応し、協働できよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、法人病院、家族等とは十分に話し合い対応する支援に取り組むよう努めている	利用者や家族の意向を早くから聞き、事業所のできることを、職員間で話し合い1日でも長く支援できるよう検討しながら対応している。協力医療機関との連携による支援もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行ったり、マニュアルにより急変・事故等には、法人病院へ連絡対応する体制となっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の各施設と共に協力体制はできており、合同で訓練も行われている	法人全体で消防署による防災訓練、非難訓練、消火訓練を定期的実施している。地域の方や自治会に協力をお願いしている。	夜間の人手の少ないときなどは、法人と連携した避難誘導となるでしょうが、できれば、利用者と一緒にその人にあわせた避難方法も日頃から身につけることをお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、言葉かけや対応には十分に気をつけるよう努めているが、常に職員の意識向上が図れるように徹底して行きたい	一人一人の人格の尊重などプライバシー保護について職員で、話しあって確認している。トイレ誘導の声かけなど充分注意しておこなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者各々に合わせた声掛けをし、意思疎通ができない方は本人の思いに立ち、意思をできるだけ尊重できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが、けして無理強いせず、本人の意思を尊重するように心掛け支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、身だしなみは本人の自立度、希望に合わせてられるよう援助している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には一緒に、準備や片づけをし同じテーブルを囲んで食事やおやつ等、会話をしながら楽しめるように努めている	法人の厨房で作った食事を刻んだり、暖めて配膳するが利用者のできるところを一緒に行う。中庭でつくった野菜を洗ったり、きざんだりしたり、誕生会には家族も一緒に食事をしようお誘いをしてみんなで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士により献立作成されており、現在全員普通食摂取であり、変化は見落とすことの無いよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各々の自立度に合わせ、毎食後口腔ケアは、必ず行っている 歯科受診の援助もその都度行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは各々把握されており、定期的な声掛け、誘導によりできる限りおむつ内での排泄が少なくなるよう努めている	利用者のパターンにあった排泄誘導をおこなうようにしている。また、ねたきりのかたが、トイレでの排泄支援までになりとてもよかった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給とできるだけ身体を動かす等は心掛けてはいるが、頑固な便秘は本人に合わせた服薬を主治医と相談しながら支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に一度の休浴日があり、概ね午後から入浴している 本人の希望に応じる形ではあるが、体調不良以外は殆ど毎日全員利用している	健康状態にあわせ希望のある方は毎日入浴している。嫌がる方は無理に入らずタイミングをみて入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々の睡眠パターンは把握されており、不眠、覚醒の多い方は、日中の活動を考慮したり、どうしても眠れない時等は無理に入眠させない様になっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自立度に合わせ、服薬心は行っており、誤飲の無いよう日勤者・夜勤者の二重の確認と服薬時チェックを行っている 全員が理解できるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの自立度や思いに近づけられるように支援するよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、天候の都度やインフルエンザ(新型)により、外出が思うように支援できない傾向にありましたが、時期的な散歩は積極的に取り入れるよう努めている	利用者の希望される外出は家族に連絡し協力しながら支援をしている。中庭の野菜畑にはよくでてユニットごとの野菜の手入れをしたり、近くの公園まで散歩にでかける。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金所持者は一名のみで、所持していない方は使用時施設の小口現金に於いて立て替えている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、やり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に、動きやすさ、入居者同士の関係性により家具の配置を変えたり、清潔感があり、居心地の良いうち毎日の温度管理もしている	居間兼食堂は、広く見渡すことができ、ソファやテレビ、ラジオがおかれくつろいだり、踊ったり自由に動きまわれるスペースである。壁には季節でかえる共同制作の絵がかかげられて落ち着いた雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、廊下のソファが自室以外でのくつろぎ場所となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人・家族とも話し合い、家具・テレビ等持ち込んで頂いている	ベッドの高さが、利用者の希望にあわせて設置されて低いもので、家具や机、など整理されておかれている。また、洗面台が個々の部屋にあり便利よく、外の景色が見られる明るい部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居当初は、混乱も見受けられるがお風呂や、便所の表示、自室の表札等、又、声掛けや誘導により自立支援に繋がるよう努めている		